

会議録（要点記録）

会議名称	令和7年度 第1回小金井市精神保健福祉連絡協議会		
開催日時	令和7年5月22日（木） 14：00～14：56		
開催場所	市役所第二庁舎 801会議室		
出席者等	小高会長、有泉委員、菊池委員、坂上委員、牧野委員、執行委員、赤濱委員（欠席）、鈴木（絵）委員（欠席）、山岡委員、石川委員、鈴木（澄）委員、高橋（杏）委員、高橋（正）委員 事務局：自立生活支援課長、相談支援係長、相談支援係主任		
傍聴の可否	可	傍聴者数	0名
会議次第	1 開会 2 市長あいさつ 3 委嘱状の交付 4 委員及び事務局職員の紹介 5 会長・副会長の互選 6 議題 (1) 今年度の目標設定について (2) 長期入院患者向けリーフレットの配布について (3) 今期の検討事項について (4) その他 7 次回の開催日について 8 閉会		
会議結果	1 開会 2 市長あいさつ 3 委嘱状の交付 4 委員及び事務局職員の紹介 5 会長・副会長の互選 会長に小高委員、副会長に牧野委員が選出された。 6 議題 (1) 今年度の目標設定について ◎事務局 本協議会は精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進するための関係機関による協議の場と位置づけられている。令和6年3月に策定した第7期小金井市障害福祉計画において、協議の場における目標設定及び評価の実施回数を毎年1回と定めている。協議会の開催は年3回を予定しているので、本日第1回目で目標設定、第2回目で進捗状況の報告、第3回目で評価を行うという形で進める。 ◎事務局 事務局から現時点での支援状況を説明。資料2 表の番号1番、50代の女性及び5番の50代女性はいずれも、令和7年4月		

にグループホームへ退院した。5番は地域移行支援の支給決定後間もなく退院した。

表の番号2番、40代の女性は一旦自宅に退院したが、間もなく再入院。病院としてはグループホームを目指す方針だが、本人がグループホームの入所を躊躇するなどの方向性が揺らぎ具体的な体験利用にはまだ至っていない。

3番、50代女性。複数のグループホームの体験利用をしているが、本人としては独り暮らしの希望が強い。病院附属の訪問看護と訪問診療の体制があるため、医療中断のリスクは比較的低いと考えるが、過去に病状悪化による近隣トラブルが頻発していたため、課題は多いと思われる。引き続きグループホームの体験を促し、慎重に進めていく方針。

6番。60歳代の女性。地域移行を開始したところだが、院内で転倒事故があり、骨折したため、現在は身体治療に専念。

7番、50代男性。入院が3年超で、病院のPSWからの提案で地域移行の導入を検討中。間もなく相談支援事業所との面会があって地域移行の申請がある見込み。

最後、8番、50歳代男性。入院が2年半で、病院のPSWより地域移行の提案があったが、現時点ではまだ申請には至っていない。

以上のとおり、今年度当初の地域移行支援対象者は資料に記載の8名だが、昨年より地域移行支援を支給決定し、退院に向けて支援を行っていた方で今年度もう既に退院した方が2名いるので、現時点で継続及び新規で地域移行支援を進めていく対象者は6名となる。

◎事務局 今年度の目標について第7期障害福祉計画では精神障害者の地域移行支援の利用者数について、令和7年度は5人を目標値と定めている。これに基づき、長期入院者等を退院促進により5人、地域生活に移行させることを目標にしたい。担当から報告したとおり、現時点で既に2人が地域生活に移行しているので、長期入院者3人を地域生活に移行できるよう支援することを本協議会における今年度の目標としたいというのが事務局からの提案である。

(提案に対して委員から質問、意見なし)

◎会長 事務局の提案どおりとする。

◎委員 1番の方、訪問看護で関わっている。今後、グループホームの生活は難しいというところまで話が進んだ。この方の幸せ、ゴール地点がどこにあるのか。

◎事務局 退院促進の目標という点で言えば、一度、地域移行しているので、数値的にはそれで1でカウント。ただ一方で、支援という点では、地域に出して終わりということではなく、地域生活を安定的にさせるというのが本来の目的であり、支援は継続する。

(2) 長期入院患者向けリーフレットの配布について

◎事務局 昨年度第2期小金井市精神保健福祉連絡協議会の成果物として作成したもの。市内の医療機関に協力いただき試験的に配布している。

第2期の協議結果を踏まえA4を二つ折りにしたサイズとしたが、試行配布している医療機関の意見を伺いながら、A3を二つ折りにしたものへの変更も検討することを了承いただきたい。

続いて資料4、令和5年6月30日時点で1年以上入院している小金井市民の人数について医療機関の所在地別に抽出したもの。一番右の列は、その市町村に所在する医療機関の数。ReMHRADが出典元。入院者数は合計で105人だが、他県を含めると8人増えて113人。

配布に係る調整やリーフレットを見た方からの相談により、地域移行支援につなげていくことを想定すると、配布先としては都内に限るのが現実的かと思い、都内に限った資料としている。

公表内容は、医療機関別ではなく、医療機関の所在地別となっている。表に記載の市町村に所在する全医療機関に送付すると、入院者がいない医療機関が多数含まれるので、リーフレットの配布について協力いただけるのか、メール等により簡単な調査をして、応じていただける医療機関に必要な数を配布する形で進めたい。

A3サイズ500部を想定して予算措置をしているので、その範囲内で現場の状況を見つつサイズと部数等を調整したい。

(本議題に関して委員からの質問、意見なし)

◎会長 事務局の提案どおり行うこととする。

(3) 今期の検討事項について

◎事務局 資料5、令和6年度第1回協議会にて提出した資料と同じもの。

第2期の協議会において、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて、その課題を解決するために何が必要か、どんな施策に取り組むかを整理し、「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた方策について」を検討事項としていたところ。しかし、協議の過程で、先ほど示した入院患者向けのリーフレットを作成し、第2期の成果物をつくることになり、この検討事項については未検討となっている。改めて今期の検討事項とすることを提案する。事務局としては、今後、部会で詳細な検討や先進的な自治体の事例収集なども行っていきたいと考えている。

◎委員 一気に取り組むことは難しいと思う。市でどれが優先順位として高いと判断しているか教えていただきたい。

◎事務局 人材不足というのは非常に大きな課題になっている。グループホーム、施設面の不足というものもあるが、すぐに何か市でできるかという点で難しい。また支援につながっていかない方へのアプロ

	一ちも課題。定義上の精神障害者ではなく精神に課題を抱える方全般が対象になっていくという中で、病識のない方が行政の関わりを拒否する例は多い。支援につながっていない方へのアプローチというのは課題と考えている。 ◎委員 市内の事業所一覧を資料として確認できるとよい。 ◎委員 精神に専門性を持った知識のある支援者を育成していく必要がある。長く支援していた方が退職等でいなくなると途端に支援が難しい状況になる。 ◎会長 1人の方に負担がかからないようにということで複数名のチームで関わっていく必要がある。基礎的な最低限の知識やスキルを身につけた人がより多く育成するなど。 ◎委員 ヘルパー研修として、例えば介護で言う初任者研修はあるか。人材不足に関して介護のほうも同じように人材不足が起こっていて、ヘルパー自身が高齢で抜けてしまうと穴が出てしまう。 ◎事務局 自立生活支援課でもヘルパーの養成講座みたいなものは毎年行ってはいるが、現状、現役のヘルパーのスキルアップのために受講される方がほとんどで、新規に目指してという方があまりいないような状況である。資格、要件等確認して資料として提出したい。 ◎委員 資料に「一部の事業所により引き起こされる不適切な支援、受け入れ拒否」の詳細は。 ◎事務局 現時点では不明のため確認して次回提示できるようにする。 ◎委員 福祉NPO連絡会というものに参加し、ヘルパー事業所の方と話す機会があり、全員全ての方が人材不足ということをやっていた。福祉職の中で人を奪い合うような状態で、福祉の畑にいない、福祉に縁が遠いと思っている人たちにアプローチしていかないといけない考えがあるということだった。精神障害の専門機関などで働いている方々の声が聞けたらいいかと思う。 ◎会長 人材不足というので何ができるのかというところで、小金井市のほうは例えばピアの活用や、ピアでのサポートなど、そういった面の現状は如何か。 ◎事務局 市の地域自立生活支援センターでもピア相談を実施している。本日欠席している委員が、今後、ピアを取り組みたいと話していた。今後、部会等で話をした上で次の協議会で示したい。 (4) その他 7 次回の開催日について 令和7年9月17日（水）10時から 8 閉会
提出資料	資料1 小金井市精神保健福祉連絡協議会 委員名簿 資料2 「地域移行支援」の支援状況

	資料3 入院患者向けリーフレット
	資料4 精神科在院患者状況
	資料5 精神保健福祉連絡協議会で抽出された課題等のまとめ